

2023年版

【社内試験の運用、悩んでいませんか？】

社内試験を「紙」で行う企業の試験担当者、 8割以上が「CBT化」に意欲、その背景やハードルは？

～紙での社内試験、特に時間を要する業務は「試験問題の作成」「採点」など～

社内試験の運用に関する実態調査
株式会社イー・コミュニケーションズ

調査概要

調査実施者

株式会社イー・コミュニケーションズ

調査概要

社内試験の運用に関する実態調査

調査方法

IDEATECHが提供するリサーチPR「リサピー®」の企画による
インターネット調査

調査期間

2023年8月18日～同年8月19日

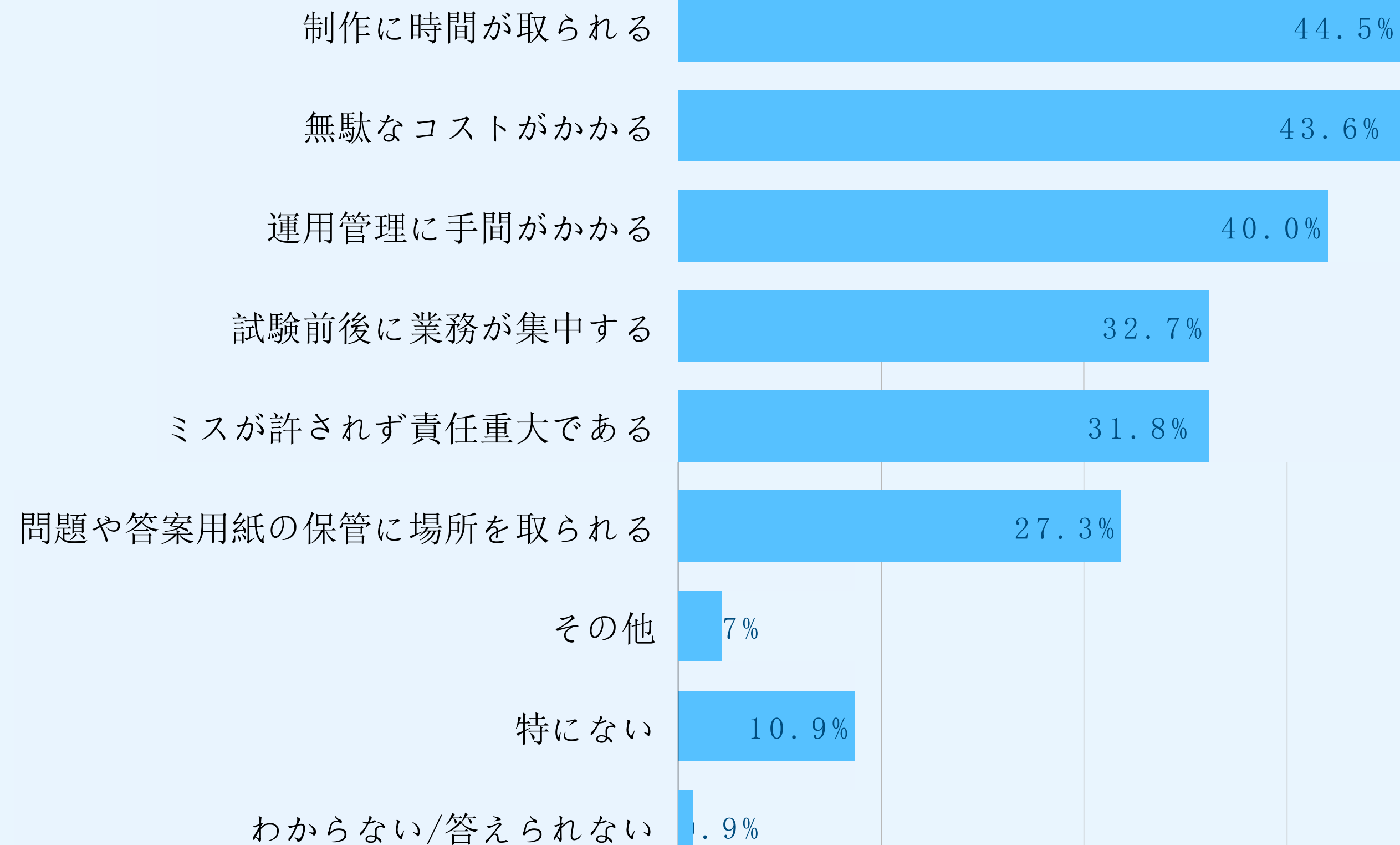
有効回答

社内試験を紙媒体で行っている企業の試験担当者（経験者含む）110名

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

Q1

お勤め先の社内試験を紙で運用する中で、感じたことのある悩みを教えてください。
(複数回答)



n=110、調査期間：2023年8月18日～同年8月19日
社内試験の運用に関する実態調査

社内試験を紙で運用する悩み、
「制作に時間がかかる」が
44.5%で第1位となりました。

Q2

Q1で「わからない/答えられない」以外を回答した方にお聞きします。Q1で回答した以外に、社内試験を紙で運用する中で、感じたことのある悩みがあれば、自由に教えてください。（自由回答）

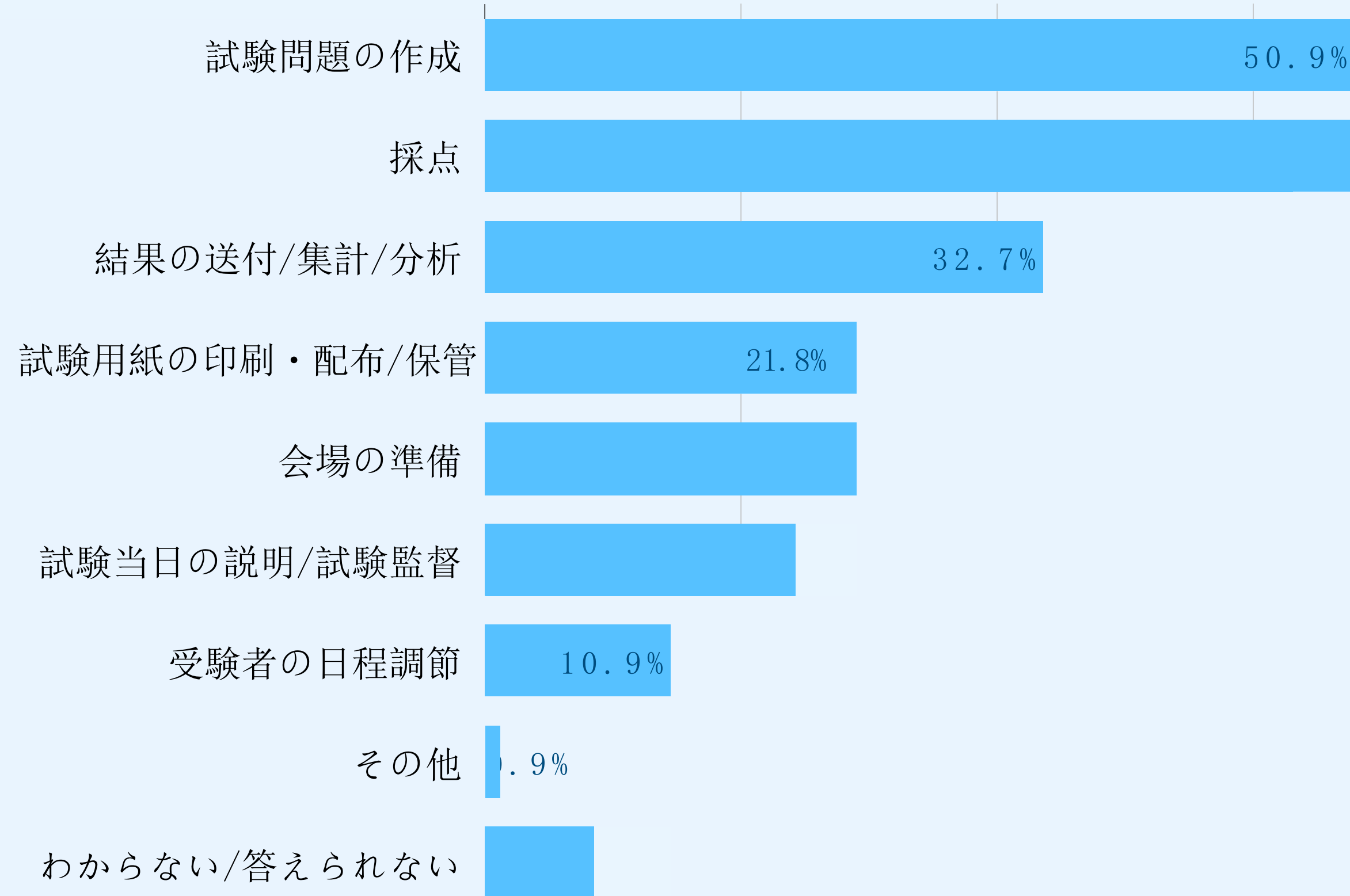
<自由回答・一部抜粋>

- ・ 48歳：通常業務の月末処理などが重なってる場合は、業務量が増して大変でした。心に余裕がなくなる。
- ・ 57歳：保管場所の確保が困難になる。
- ・ 61歳：本人の文字が解読できないことや、こちらが本人の回答の意図を正しく読み取れているのか不安になることがある。
- ・ 65歳：解答後の試験紙を第三者に閲覧された過去があった。
- ・ 53歳：採点の負担が大きい。
- ・ 55歳：問題配布、回収等に工数を要する。
- ・ 54歳：文字が滲む、印刷のズレ。

社内試験を紙で運用する悩み、「問題配布、回収等に工数を要する」や「保管場所の確保が困難になる」などの声が上がりました。

Q3

社内試験を紙で運用する中で、特に時間を要する業務内容を教えてください。
(上位3つまで)

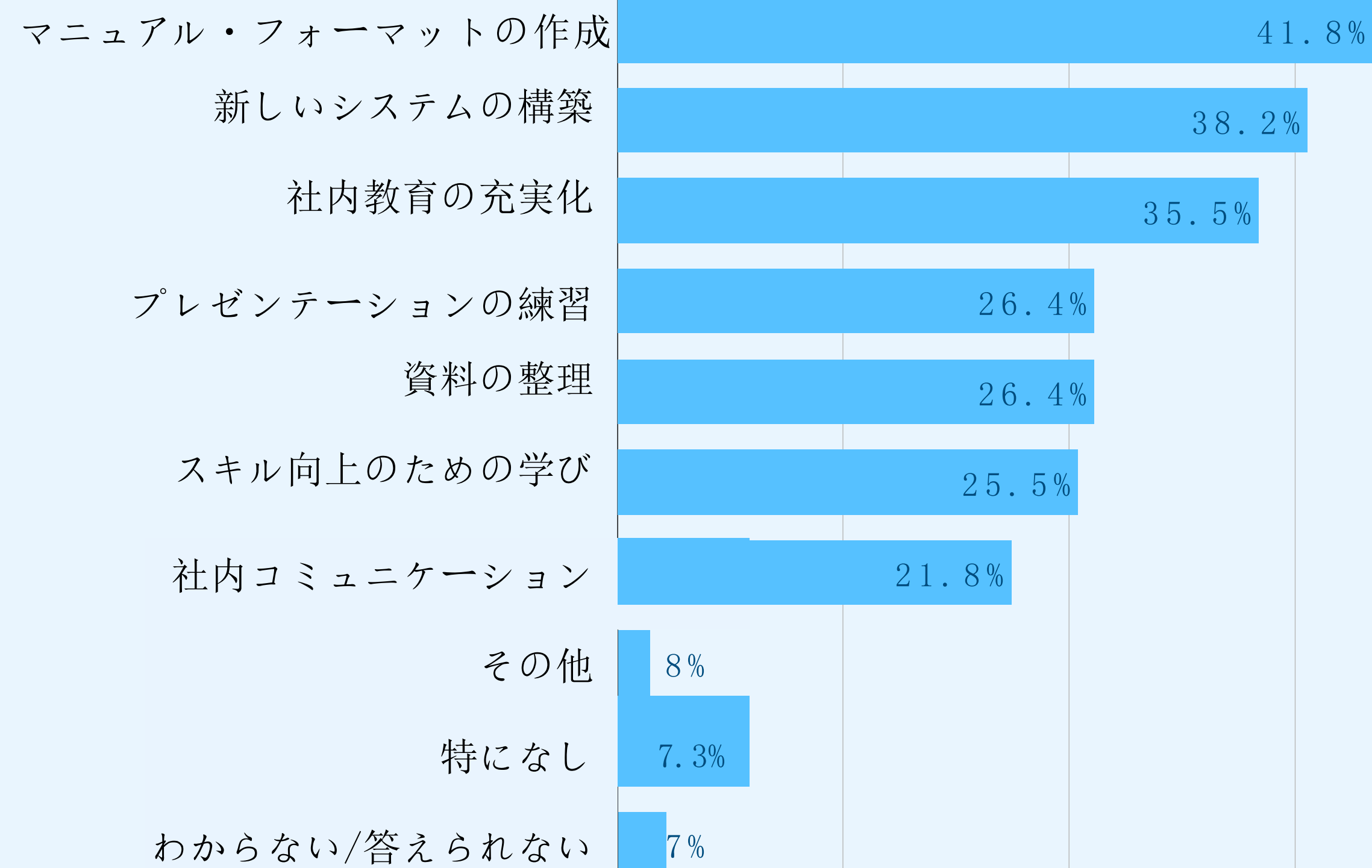


n=110、調査期間：2023年8月18日～同年8月19日
社内試験の運用に関する実態調査

特に時間を要する業務内容、
「試験問題の作成」「採点」
などが上位になりました。

Q4

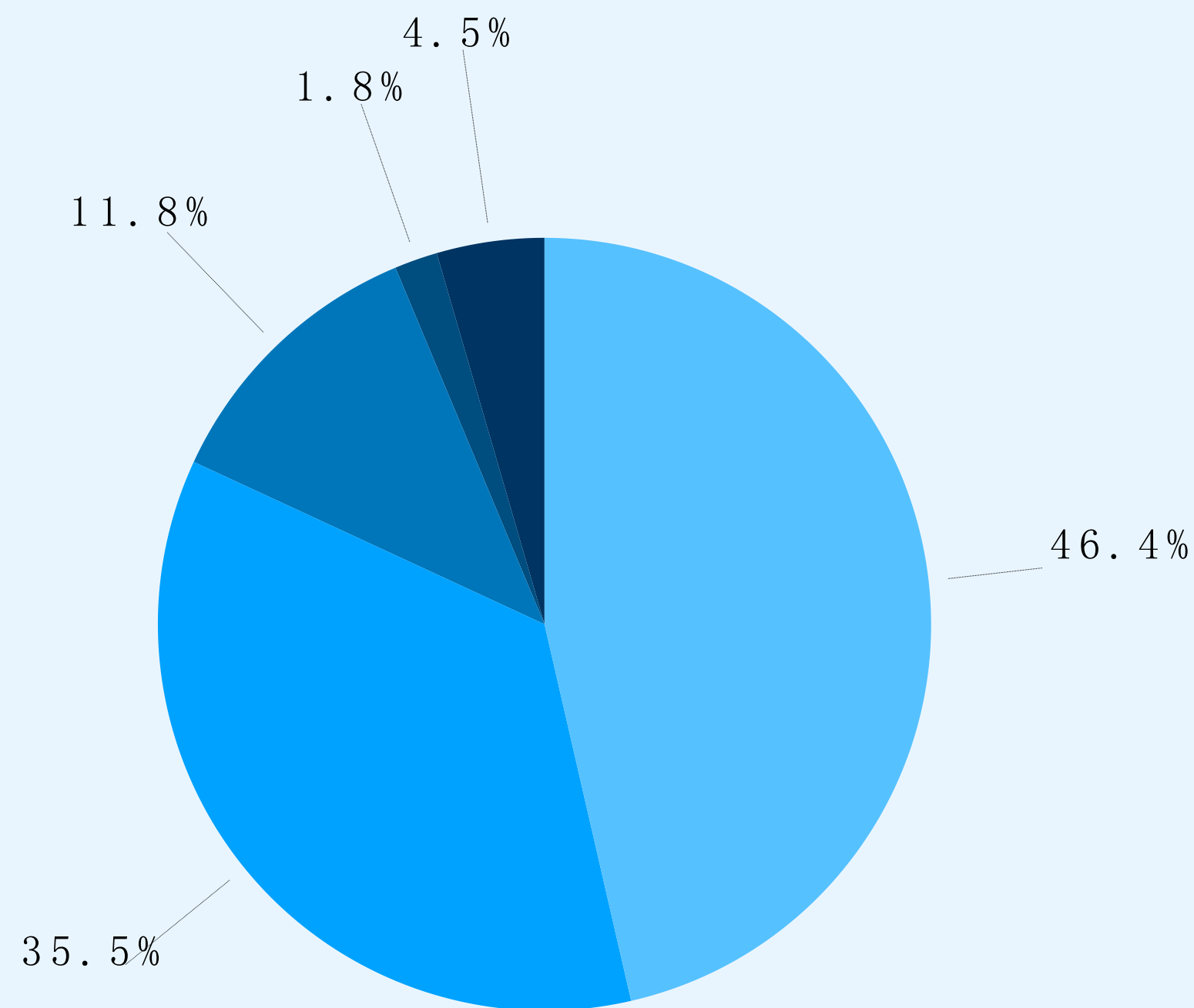
あなたは、社内試験を紙で運用している業務時間が今後削減できた場合、どのような業務に時間を使いたいですか。（複数回答）



紙で運用する業務時間が今後削減できた場合、「マニュアル・フォーマットの作成」などに時間を使いたいと回答しました。

Q5

紙の試験からコンピューターを使った試験にすることで、採点処理や結果通知に要する時間やコストを大幅に削減することが可能な、社内試験の「CBT化」を取り入れてみたいと感じますか。



- 46.4% 非常にそう感じる
- 35.5% ややそう感じる
- 11.8% あまりそう感じない
- 1.8% 全くそう感じない
- 4.5% わからない/答えられない

81.9%が「社内試験の「CBT化」を取り入れてみたい」と回答しました。

Q6

Q5で「非常にそう感じる」「ややそう感じる」と回答した方にお聞きします。社内試験の「CBT化」を取り入れてみたいと感じる理由を教えてください。（複数回答）



社内試験の「CBT化」を取り入れてみたい理由、「コストが削減できるから」などが上位になりました。

Q7

Q6で「わからない/答えられない」以外を回答した方にお聞きします。Q6で回答した以外に、社内試験の「CBT化」に興味がある理由があれば、自由に教えてください。
(自由回答)

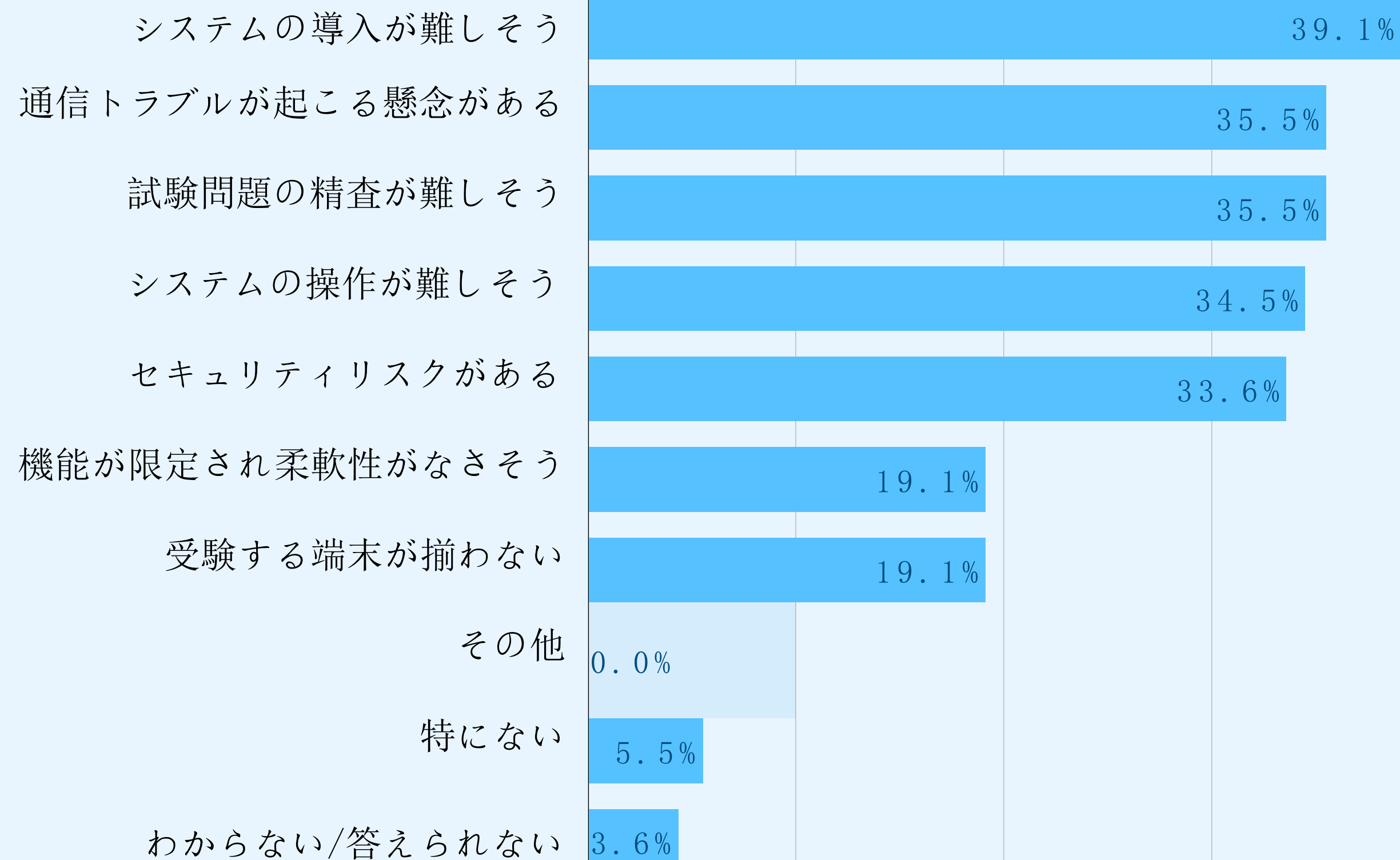
<自由回答・一部抜粋>

- 57歳：手書きの答案を読むのが面倒だから。
- 65歳：これからの社内試験は、業務の効率化を図る目的としてCBT化に徐々に移行していく必要がある。
- 45歳：時間もコストも削減できそう。
- 36歳：データの保存が楽そう。場所を取らない。
- 29歳：会場に集まらなくても、色々なところで試験が受けられそうだから。
- 53歳：ヒューマンエラーの削減に効果を発揮出来ると思う。
- 57歳：手間が掛かり過ぎるのでCBT化で業務を減らしたい。

社内試験の「CBT化」に興味がある理由、
「手書きの答案を読むのが面倒だから」
などの声が上がりました。

Q8

お勤め先において、社内試験のCBT化を推進していくと仮定した場合に、ハードルとしてどのような不安を感じますか。（複数回答）



社内試験のCBT化を推進のハードル、
第1位「システムの導入が難しそう」
39.1%という結果となりました。

Q9

Q8で「わからない/答えられない」以外を回答した方にお聞きします。Q8で回答した以外に、社内試験のCBT化を推進していくと仮定した場合に、ハードルとして感じる不安があれば、自由に教えてください。（自由回答）

<自由回答・一部抜粋>

- 59歳：専門知識がない。
- 62歳：電子データの管理とセキュリティ対策。
- 50歳：試験会場の通信環境確保。
- 57歳：端末準備の費用が掛かり過ぎる。
- 46歳：試験会場の確保、準備作業。
- 48歳：最終決定者の判断に委ねられるから。
- 38歳：個人情報情報の漏洩やセキュリティの問題でなにか起きないかが心配です。

社内試験のCBT化を推進のハードル、
「専門知識がない」などの声が上がりました。

CBT試験 / IBT試験 プラットフォーム MASTER CBT PLUS



全社一斉試験、階層別試験、オンラインテスト・検定などシーンに応じたCBT試験が実施できます。

紙の試験からコンピューターを使った試験（= Computer Based Testing略してCBT）にすることで、採点処理や結果通知に要する時間・コストを大幅に削減可能！また、紙の試験では実施が難しい音声や動画を用いた問題も出題することができ、多様な試験方式に対応しています。受験者の理解促進にも効果的です。

企業内オンラインテストとして利用

インターネット環境と受験端末（PC、タブレット、スマートフォン）があれば受験が可能なIBT方式（Internet Based Testing）のプラットフォームを使えば、社内試験はもちろんのこと、内定者教育やコンプライアンス教育、理念浸透や商品・サービス等の刷り込みツールにも利用が可能です。MASTER CBT PLUSは様々な企業、検定・資格団体に利用されております。

会場型CBTを利用

検定・資格試験などが全国47都道府県の試験会場と、日時を選択して受験することができる会場型CBTサービス『J-Testing』を提供しております。

会場型CBTサービスでは、採点処理の自動化による受験結果の即時通知を行うことが可能となります。

J-Testingの受験端末には、MASTER CBT PLUSが用いられており、安全、安定した試験の実施を実現しています。

▼詳細はコチラ

<https://www.e-coms.co.jp/master-cbt-plus>

お問い合わせ

会社名

株式会社イー・コミュニケーションズ(e-communications Inc.)

TEL

03-3560-3901

WEB

<https://www.e-coms.co.jp/>

会社住所

〒106-0032

東京都港区六本木7丁目15-7 新六本木ビル SENQ六本木704